

平成 26 年 2 月 25～27 日の PM2.5 の濃度上昇について

<PM2.5 濃度の状況と注意喚起の発令状況>

- ・ 2 月 25 日から 27 日にかけて、日本各地で PM2.5 濃度の上昇が観測された。
- ・ 北陸地方や西日本を中心に、25 日は 1 県、26 日は 10 府県、27 日も 1 県で注意喚起がなされた。
- ・ 注意喚起が実施された自治体の中で、期間中に最も高い日平均値が観測されたのは 2 月 26 日の亀田局（新潟県）で $96 \mu\text{g}/\text{m}^3$ （速報値）だった。

表 1 注意喚起実施自治体に関する情報

		発令時間帯	最も濃度が高かった測定局	
			測定局名	日平均値 【速報値】 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
2月25日	山口県	午後	山の田（下関市）	59
2月26日	福島県	午前	会津若松（会津若松市）	73
	新潟県	午前	亀田局（新潟市）	96
	富山県	午後	小杉太閤山局（射水市）	80
	石川県	午後	輪島（輪島市）	77
	福井県	午後	三国（坂井市）	81
	三重県	午後	納屋（四日市市）	67
	大阪府	午後	南港中央公園（大阪市）	72
	兵庫県	午後	加古川市役所（加古川市）	79
	香川県	午前	高松競輪場（高松市）	78
	山口県	午前	麻里布小学校（岩国市）	70
2月27日	富山県	午前	小杉太閤山局（射水市）	56

<PM2.5 濃度上昇の要因>

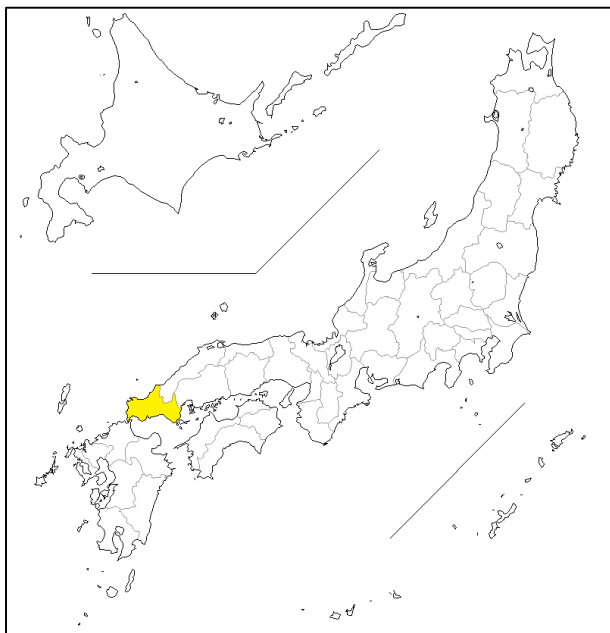
今回の濃度上昇は、総合的に判断すると、大陸からの越境汚染と都市汚染の影響が複合している可能性が高いと考えている。

（判断理由）

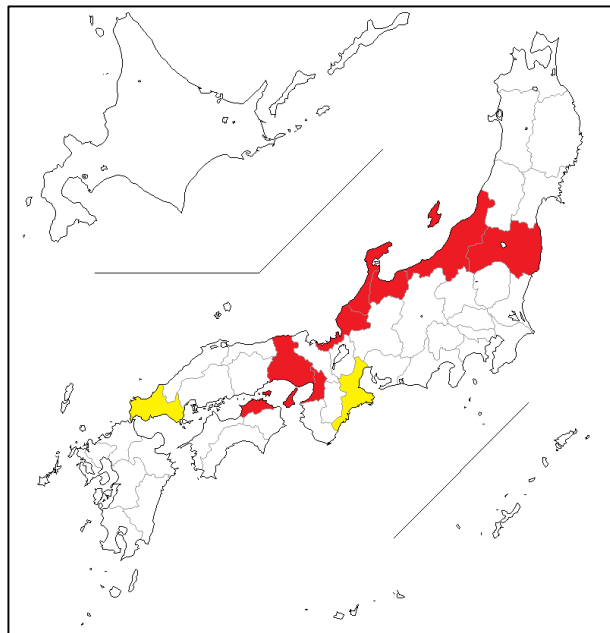
- ① 日本海側の地域を中心に広域的に高濃度が観測された。
- ② 日本海の離島（佐渡島、隠岐島、対馬）でも濃度上昇が確認され、新潟では大陸からの空気塊の流れも予測されていた。
- ③ PM2.5 のシミュレーション結果でも、北東アジアにおける広域的な汚染の一部が日本に及んでいた。
- ④ 一方で、日本の中心部を東進した移動性高気圧の影響により、都市汚染も含めて大気汚染物質が滞留しやすい状況にあった。

(参考)

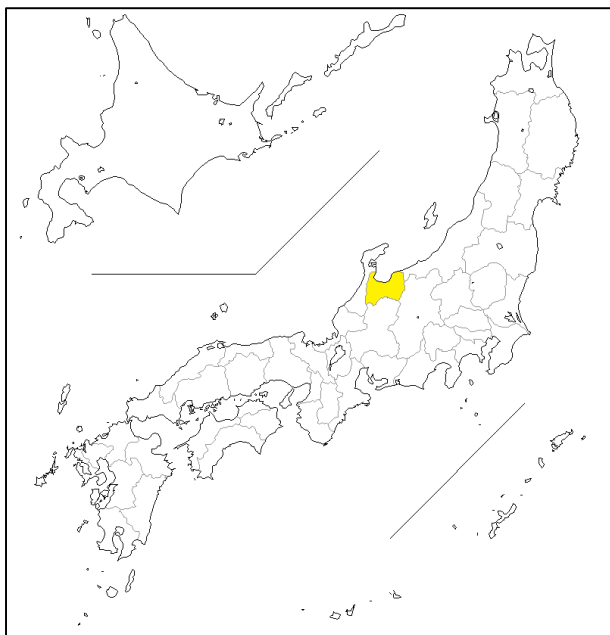
注意喚起の実施状況





2月25日



2月26日



2月27日

-  : 注意喚起を実施し、日平均値も $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した自治体
-  : 注意喚起を実施したが、日平均値が $70 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過しなかった自治体